

「自ら学び、進んで活動できる生徒の育成」

～確かな学力を育てる学習活動の取り組みと道德教育の実践を通して～

I 研究の内容

1 生徒の学力向上に関する研究と実践（国語力向上を含む）

昨年度までの研究の継続として、学力向上・国語力向上の研究と実践に取り組んできた。

- ・個に応じた指導の実践
 - 少人数，習熟度別授業の実践（英語科）
 - ティームティーチング（これ以後TT）の実践（数学科，英語科）
- ・「国語力」に関すること，国語力，読解力向上に関する研究（国語科）
- ・基礎，基本の重視，基礎学力の向上に関わる研究と実践（基礎学力テスト，朝学習の質的な向上，個別指導など）
- ・国語力向上に関する環境づくりの研究
- ・読書活動の推進
- ・確かな学力の向上に関する各種実践（日常指導）

2 道德教育の指定校としての研究

山梨県教育委員会指定「心に元気をはぐくむ道德教育推進事業」を受け，道德の授業の実践および道德的実践活動を推進してきた。

- ・道德の授業の積極的実践，研究授業の実施
- ・道德の全体計画，年間指導計画の確認
- ・道德教育の充実と道德の授業の地域，保護者等への公開
- ・「心のノート」の活用（心のノートを懸け橋とした学校，家庭，地域の連携の在り方の研究）
- ・道德の授業等への地域の人々や保護者の積極的な活用
- ・社会規範意識の醸成や基本的生活習慣の定着，思いやりの心の育成など心に元気をはぐくむことを目指した実践活動の推進
- ・各種懇談会等の利用推進
- ・学校，家庭，地域との連携のための各種取り組み（講演会など）
- ・「あいさつ，声かけ運動，花づくり」等の具体的アクションについての検討，実践
- ・今までの各種関連行事との連携（クリーンアップ，廃品回収，保育実習，福祉施設訪問，ボランティア活動）

3 特別支援教育（特殊学級の運営）に関わる内容についての研究と実践

昨年度から設置された知的障害特殊学級および今年度新設された難聴学級に対して，その生徒達の実態に応じた実践を中心とした研究を進めてきた。

4 昨年度までの継続研究（確認と実践）

- ・開かれた学校づくり関すること（学校評価などについての実践と検討）
- ・目標に準拠した評価（絶対評価）についての研究と実践

II 成果と課題（具体的な取り組み）

1 生徒の学力向上に関する研究と実践（国語力向上を含む）

英語科において、1年生少人数授業、3年生完全習熟度別授業、2年生は、週1時間のTTの授業を実施した。また、数学科においては、2年生について、全時間（週3時間）TTによる授業を実施した。

英語科においては、3年目の実践ということもあり、学力の到達度において顕著な効果が出てきている。数学科においては、TTの授業は実施してきたが、全時間のTTについては、今年度が初めての実施であった。週1時間の時に比べ、教師同士の意志の疎通や生徒とのコミュニケーションもとりやすくなった。また、個別指導など、きめ細やかな指導ができるようになった。1年間の実践を通して、今後はTTに適した課題や指導方法を開発していく必要性を感じた。すなわち、TTを実践していくことで、今までできなかった新しい何かにチャレンジしていくことができると感じた。そのことが、生徒の学力向上につながっていくといえる。

2 道徳教育の指定校（心に元気をはぐくむ道徳教育推進事業）としての研究

道徳の指定校として、日々の道徳の授業の充実および道徳的实践活動の推進を実施してきた。道徳の研究授業を各学年1実践ということで実施した。また、公開研究会では5クラスにおいて道徳の授業公開を行った。何よりもこの実践を通して、担任はもとより、全教師の力量が高まったとともに、生徒の道徳的心情などを高めることができた。

道徳的实践活動においては、吹奏楽部の老人ホームへの慰問演奏などを実施するとともに、今までやってきた活動をさらに充実する方向で数多くの実践をつむことができた。

3 特別支援教育（特殊学級の運営）に関わる内容についての研究と実践

今年度から設置された難聴学級および昨年度から設置された知的障害学級にともない本校において特別支援教育の基礎的な研究を特別支援コーディネーターを中心に推進してきた。制度上の改訂も含む理論研究を中心にを行い、全職員の共通理解を図った。

4 昨年度までの継続研究（確認と実践）

5年目となる学校評価（学校診断調査）の全生徒、保護者、教職員への実施およびその集計と説明を実施した。5年目の実績をうけて、設問等の見直しを行っている。

III 成果物

- ・校内での研究授業における道徳の授業案および公開研究会の授業案
- ・学校評価（学校診断調査）（研究主任 吉澤 直樹）